

<徳島県阿南市における取組>

【統合困難な地域における教育環境の充実の取組モデル】

○分散型小中一貫教育（チェーンスクール）を活用して活力ある学校教育を推進した例

1. 市町村の概要

◆人口：74,270人（平成29年12月現在）

◆小学校：22校，児童数 3,873人 ◆中学校：11校，生徒数 2,083人

※学校数，児童生徒数は平成29年5月1日現在

◆市町村全体の学校の統合・存続の状況

本市は児童数683名の大規模な小学校から，生徒数6名の離島の中学校まで，地域によって学校規模は様々である。現在，小学校4校が休校している状態ではあるが，現段階において学校の統廃合の計画はない。

2. 研究タイトルと研究課題

◆研究タイトル

分散型小中一貫教育（チェーンスクール）を活用した活力ある学校教育の推進

※「チェーンスクール」とは、小規模校を維持しつつ、複数の小学校をチェーンで結ぶスケールメリットを活かし、各学校の人的・物質的資源を相互に活用しながら多様な学びを保障する、経済効率性と教育多様性を同時に追求した学校間連携の考え方に基づく学校

◆研究課題

- ①少人数のため個々の児童生徒に目が届きやすいというメリットを生かした小規模校における教育活動の活性化
- ②チェーンスクールを生かして小規模校のデメリットを削減する合同授業・合同行事等の在り方及び体系的な教育課程の編成
- ③経済的効率性を重視しながら小規模校の存続を図る学校間ネットワークの構築
- ④地域の教育力の一層の活用による小規模校の教育活動の活性化及び開かれた学校づくり

3. 調査研究対象校の状況

◆調査研究対象校

阿南市立椿小学校（3学級，18名）

阿南市立椿泊小学校（3学級，11名）

阿南市立椿町中学校（3学級，15名）

◆調査研究対象校を存続することとした背景・理由

- ・車が入ることが困難な曲狭路が続く岬の先に位置している学校がある。
- ・近隣の小・中学校とは山を隔てた遠隔地に位置している。
- ・歴史と伝統のある小・中学校であり地元住民の学校への愛着が強いなどにより，本小・中学校の再編予定はない。

◆調査研究対象校における地域との連携の状況

- ・学校便り「チェーンスクール通信」を新聞折り込みで各家庭に配布するなどして，情報発信を積極的に行っている。
- ・合同運動会，人権教育研究大会，環境学習，農業体験学習など多くの活動を通して，学校と保護者・地域との連携・協働を図っている。

◆児童生徒数を確保するための工夫

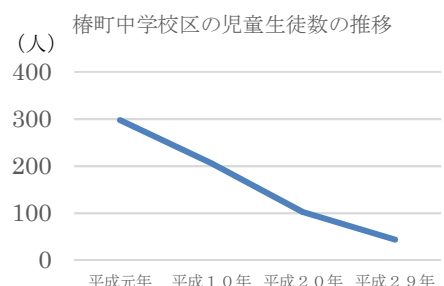
- ・児童生徒数は年々減少傾向にある。小規模校の魅力を情報発信することにより児童生徒数減少の歯止めを図っている。

◆調査研究対象校の位置



調査対象地域は阿南市東南部に位置しており，人口は約1,400人。岬の先端に位置する椿泊小学校へは阿南市街から車及び徒歩で約1時間。

◆対象校の児童生徒数の推移



4. 本調査研究において取り組んだ内容

◆小規模校のメリットを活かした教育活動の活性化（平成 27 年度）

小規模校のよさを生かし、個々の児童生徒が授業や行事で発表する機会を増やすなどして表現力の育成に取り組んだ。また、小中合同行事を積極的に行い、学校間ネットワークの構築による教育活動の活性化に取り組んだ。



様々な集会でのスピーチ



ふれあい防災オリエンテーリング



小中合同体カテスト

◆合同授業・合同行事等を実施することにより小規模校のデメリットを削減（平成 28 年度）

テレビ会議システムの活用などにより、大きな集団での授業を実施することで、学習形態の多様化や、学びに広がりや深まりをもたせることに取り組んだ。また、中学校教員の出前授業や、小中合同・小小合同の活動を積極的に行った。



テレビ会議システムを活用した授業



中学校教員による出前授業



中学生による NIE 出前授業

◆学校と保護者・地域との連携・協働（平成 29 年度）

様々な行事や活動の広報をすることにより、地域の方々に学校の取組を知ってもらう機会の充実を図り、地域との連携・協働を進めた。また、地域人材の積極的活用に努め、地域に開かれた学校づくりに取り組んだ。



合同運動会での阿波踊り（総踊り）



和太鼓公演・小中合同体験教室



椿支部人権教育研究大会

5. 研究の成果と今後の取組

以下の児童生徒や保護者を対象としたアンケート結果からも分かるように、大きな成果を得ることができた。今後はこれまでの取組を精選・充実させながら、小規模校の活性化に向けた取組をさらに進めていきたい。

児童：「合同学習があるといつもよりたくさんの友だちと勉強したり話をしたりするので楽しい。」

生徒：「年の離れた小学生や、地域の方々と関わりをもつことができ、地域の深まりも強くなっていると思う。」

保護者：「チェンスクールの取組のおかげで、大きい学校に負けないどころか他校では学べないことができ、子供たちの大きな成長につながっていると感じる。」

6. 学校の存続に課題を抱える自治体へのメッセージ

地理的に分散した小中学校がネットワークを構築し、人的・物的に連携して教育活動の充実・活性化を図り、教育の質を保障するのがチェンスクールであると考えます。人数が少ないという小規模校のデメリットを、人数が少ないからこそ個々の児童生徒に目が行き届くという小規模校のメリットに変えて、機動性と柔軟性を持って新しい視点と工夫で様々な教育活動を展開することにより、小規模校ならではの豊かな学びを児童生徒は体験することができる。